



ヒバクシャ地球一周 証言の航海
Global Voyage for a Nuclear-Free World
Peace Boat Hibakusha Project

PEACE
BOAT

〒169-0075
東京都新宿区高田馬場
3-13-1-B1
TEL: 03-3363-7561
FAX: 03-3363-7562
<http://www.peaceboat.org>

2017年3月23日

第10回「ヒバクシャ地球一周 証言の航海」
参加者 略歴

■被爆者



三瀬 清一郎(ミセ・セイイチロウ)

長崎被爆 1935年2月26日生まれ 被爆当時10歳

長崎県長崎市在住

爆心地より3.6km地点にある自宅にて、オルガンを弾いて遊んでいるときに被爆。とっさに目と耳を両手でふさぎ、うつ伏せになったところで強烈な爆風に襲われる。幸運にも家族全員無事だった。自身の被爆体験にとどまらず、戦争中の日本の様子や、原爆が投下されてからの被爆者の生き方なども含めて、主に修学旅行生を対象に数多くの証言をし、「平和の尊さ」を強く訴えている。長崎平和推進協会継承部会に所属し、体験談の活字化、機関紙への投稿等も行っている。



田中 稔子(タナカ・トシコ)

広島被爆 1938年10月18日生まれ 被爆当時6歳

広島県広島市在住

国民学校に登校中2.3km地点で被爆。思わず顔を右腕で覆ったため、頭、右腕、首の左後ろ側を火傷した。その日の夜から高熱を出し、意識不明となるが、なんとか助かった。ニューヨークのプロジェクト「ヒバクシャ・ストーリーズ」に招かれるなど、7年間で10回以上渡米し、アメリカのさまざまな人に被爆証言をしてきた。核兵器禁止条約が被爆者が生存しているうちに成立するよう、精力的に活動している。



土田 和美(ツチダ・カズミ)

広島被爆 1940年8月9日生まれ 被爆当時4歳

埼玉県草加市在住

妹のために友達と牛乳を取りにいく帰り道、爆心地から3kmの地点で被爆。爆風で吹き飛ばされたが、目に見える怪我はなく、ただただ驚いて言葉が出なかった。2012年9月、ピースボート被爆者派遣団として非核特使の委嘱を受け、緊張の高まる中東イスラエルで核廃絶と平和を訴えた。また日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の要請で、ワシントンD.C.にて証言を行うなど、幅広い人たちに向け証言活動を行なっている。現在は「平和ネット草加」に所属し活動している。

■被爆二世/継承者



山村 法恵(ヤマムラ・ノリエ)

広島被爆二世 1950年8月30日生まれ

広島県安芸高田市在住 広島市被爆体験伝承者一期生

国鉄に勤務していた父(当時30歳)が職場の命を受け、原爆投下6時間後に広島へ向かい入市被爆した。また母(当時12歳)は小中学校にて被爆者の手当をして、救護被爆した。広島市の被爆体験伝承者養成事業に参加し、2015年に「被爆体験伝承者」の一期生として認定された。近年の広島長崎の記憶の風化に危機感を抱いている。記憶を忘れさせないために自分が伝えていかなければと強く思っている。



砂原 由起子(スナハラ・ユキコ)

広島被爆二世 1956年11月15日生まれ

広島県広島市在住 広島市被爆体験伝承者候補者三期生(2017年認定予定)

学徒動員として郵便局で勤務していた母(当時15歳)は、爆心地から2km地点の宇品の郵便局で被爆した。また父(当時16歳)は京都の大学生で軍服工場で働いていたが、原爆投下の知らせを受け広島駅付近の自宅へ向かい入市被爆した。広島市の被爆体験伝承者養成事業に三期生として参加している。核兵器禁止条約へ向けて、どうしたら若い人に関心をもってもらえるかが課題だと感じている。

■ユース特使



鈴木 慧南(スズキ・ケイナ)

神奈川出身、神奈川県横浜市在住 現在23歳 (ピースボート インターン)

2015年に行われた「第8回 ヒバクシャ地球一周 証言の航海」にユースとして参加。その後、長崎に9ヶ月間住み込み、被爆者の方の講話のお手伝いやN-DOVEの活動に参加。横浜に帰ってきたのち大学を休学し、ピースボートでインターンを行う。2016年12月には長崎で行われた外務省主催のユース非核特使フォーラムで今までの活動の成果を報告した。核兵器禁止条約締結へむけての機運が高まっている中、もう一度「広島・長崎の声」を届けたいと思い、今回の参加を決意。



遠藤 愛弓(エンドウ・アユミ)

神奈川出身、神奈川県横浜市在住 現在22歳

大学で核や原爆、平和などについて考えるサークル『Peace☆Ring』に所属し、毎年夏は広島長崎のスタディツアーに参加。そこで得たものや感じたことをそのままにするのではなく、大学内にてアウトプットの場作りをするなど、日々「伝える」活動をしている。現在、国際協調ではなく自国中心の考え方や、戦争を知らない世代を中心として戦争や核の保有に肯定的な人が増えていることに危機感を抱いており、被爆者とともに戦争や核兵器の恐ろしさを伝えていきたい。

※出航時(2017年4月12日)の年齢を記載しています。